

農薬選びのポイントと散布時の注意点

農薬を購入する時や散布する時、どうしたらいいだろうかと迷うことはありませんか。今回は、農薬選びのポイントと使う際の注意点を紹介します。

1. 農薬の種類は？

農薬には病気の防除に使用する殺菌剤、害虫の防除に使用する殺虫剤、雑草を枯らす除草剤などがあります。購入する際、必ず「何を防除するか」その対象をふまえて農薬を選びましょう。なお、スプレータイプの商品には殺菌剤と殺虫剤が混合されているものがあります。

2. 病害虫名は何ですか？

「ホウレンソウにアブラムシがついている」など病害虫の名前がわかれば、農薬のラベルをみてください(写真1)。農薬ラベルは農薬の容器や袋の裏に記載されていますが、容器に巻き付けたもの(写真2)や箱の中に説明書として入っているものもあります。

①	②	③	④	⑤	
作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	総使用回数* 本剤 ジノテフラン
しゅんぎく	アブラムシ類	3000		前日	3回(は種時及び定植時の土壌混和は合計3回、散布は2回)
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	2000			
ほうれんそう	アブラムシ類 ウリハムシモドキ	3000		3日	3回(は種時の土壌混和は1回、散布は2回)
非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイ、煙草さびを除く、かぶ)	キスジノミハムシ	2000		2回	
	アブラムシ類	2000~3000	100~300ℓ/10a		5回(は種時の土壌混和は1回、は種時の全面土壌混和は1回、粒剤の散布は1回、水苔剤の散布、液剤の散布及び無人前立農薬散布機による散布)
だいこん	ダイコンハムシ	2000		7日	

写真1 農薬ラベル

作物名(①)と適用病害虫名(②)の項目があります。作物名が書いてあれば、使用可能な農薬です。農薬は登録制度に基づいて販売しています。作物名が書いていない農薬は使用できませんし、適用病害虫名がなければ、効果が期待できません。適用病害虫名がわからない場合は書籍やインターネットなどで調べてみてください。もちろん、営農支援センターでの相談も受け付けています。

3. 農薬ラベルを読み解く

ラベルには作物名や適用病害虫名のほか、希釈倍数(③)や使用時期(④)、総使用回数・本剤(⑤)などが書かれています(写真1)。希釈倍数1000倍は1mlまたは1gの農薬を1ℓの水で希釈したものです。使用時期は収穫前日数のことで散布可能な収穫までの日数を示しています。なお、使用時期の「前日」とは24時間前のことです。総使用回数・本剤はこの農薬の散布できる上限の回数(2回なら2回まで使用可能)をあらわしています。

4. 栽培面積に見合った農薬を選びましょう

農薬には使用期限があり、使い切ることが大切です。余った農薬を家庭ごみで出すことはできません。自分の栽培する面積に合わせ、適切な容量のものを選びましょう。プランターや庭、狭い面積で栽培している方は、スプレータイプや分包タイプの農薬がおすすめです。

5. 農薬散布時の注意点

- (1)必ず農薬ラベルの記載事項を守って、散布を行ってください。
- (2)散布は日中を避け、朝夕の涼しい時間帯で、風の無い日に行いましょう。
- (3)雨が降った後や雨が降る前の農薬散布は効果が低下するおそれがあるので、避けましょう。
- (4)葉裏に十分にかかるように散布してください。まわりの作物へのドリフト(農薬がかかってしまうこと)に注意しましょう。
- (5)散布時は手袋やマスクなどを着用して、体に農薬がかからないようにしてください。散布をしたあとは、防除器具を洗うとともに、手足、顔などをせっけんでよく洗い、うがいを行いましょう。

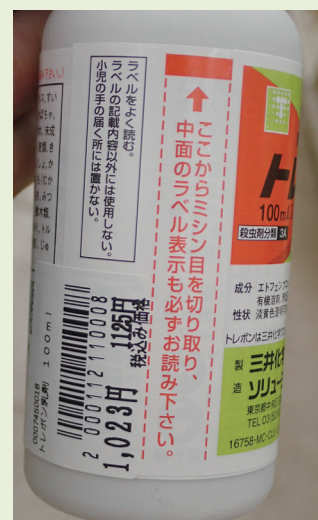


写真2 農薬ラベル
容器に巻き付けたもの